

鳥取県における昭和 60 年度～63 年度「B 型肝炎母子感染防止事業」の現況

白木和夫 谷本 要 田中雄二 岡田隆好 原田友一郎

要約：鳥取県の妊婦における HBs 抗原の陽性率は平均 3.13% であり、HBs 抗原が陽性であった妊婦の HBe 抗原受診率は平均 94.9%（検査時期のずれがあるので実際はこれより高率である）、HBe 抗原陽性率は平均 23.5% であった。そして、対象児のほとんどすべてが予防処置を受けていると推定された。

見出し語：鳥取県、「B 型肝炎母子感染防止事業」、HBs 抗原、HBe 抗原

研究方法

鳥取県では、昭和 61 年 1 月、児に対する事業開始当初から指定施設（3 施設、62 年 4 月以降 6 施設）でのみ 2 回目の HBIG および 3 回の HB ワクチン接種を行ってきた。このため県下のほぼ全例が把握され、これをもとに事業実施状況をまとめた。

結果と考案

妊婦における HBs 抗原の陽性率は平均 3.16% であり、全国平均に比較してやや高い傾向にあった（表 1）。

HBs 抗原が陽性であった妊婦の HBe 抗原検査受診率は平均 94.9%（検査時期のずれがあるので実際はこの率より高率である）、

鳥取大学小児科 (Dep. of Pediatrics,  
Tottori Univ. School of Medicine)

HBe 抗原陽性率は平均 23.5% であった（表 2）。

表 3 に鳥取県指定病院において経過観察されている HBe 抗原陽性キャリア妊婦からの出生児の月別出生数を示す。児の総数は 140 名であり、表 1 に示した HBe 抗原陽性キャリア妊婦の総数 161 名に比べ 21 名少ない。しかし、妊婦の HBe 抗原検査が行われる時期はおおむね妊娠前期である。児はその検査後 6 か月くらいしてから出生するために当然数は少なくなること、里帰り出産で出生直後に HBIG 投与を受けた後、県外の居住地へ帰って行った児などが HBe 抗原陽性キャリア妊婦の総数 161 名に含まれており、実際にはほとんどすべての対象児が予防

処置を受けていると推定される。

表1. 妊婦におけるHBs抗原陽性率

	受診者数	陽性者	陽性率
昭和60年度	4935	154	3.12%
61年度	7119	219	3.05%
62年度	6785	213	3.14%
63年度	6294	137	3.19%
計十	23133	723	3.13%

ただし、63年度は4～11月 60年度は6～12月

表2. HBs抗原陽性妊婦におけるHBe抗原陽性率

	対象	受診者数	陽性者	陽性率
昭和60年度	154	118	32	27.1%
61年度	219	220	49	22.3%
62年度	213	197	45	22.6%
63年度	137	151	35	23.2%
計十	723	686	161	23.5%

表3. 年度別、月別にみたHBe抗原陽性キャリア妊婦からの出生児と予防処置実施状況

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計十
昭和60年度		/	/	/	/	/	/	/	/	/	3	5	2	10
61年度		5	8	7	3	5	6	8	3	1	5	5	5	56
62年度		4	4	5	5	8	5	4	2	3	2	2	3	47
63年度		2	4	6	5	5	0	3	2	*	*	*	*	27
計十														140

/: 事業開始前

\*: 未回収



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:鳥取県の妊婦における HBs 抗原の陽性率は平均 3.13%であり、HBs 抗原が陽性であった妊婦の HBe 抗原受診率は平均 94.9%(検査時期のずれがあるので実際はこれより高率である)、HBe 抗原陽性率は平均 23.5%であった。そして、対象児のほとんどすべてが予防処置を受けていると推定された。